

ブルンジ：ジェルマンさんが釈放されました！



Husband and wife, Emelyn Mufasoni and Germain Rukuki
© Amnesty International

人権団体に働いていたという理由だけで 32 年の実刑判決を言い渡されていたジェルマン・ルクキさんが、今年 6 月の控訴審で刑を 1 年にする減刑判決を受け、釈放されました。

2017 年 7 月、前例のない 3 選を果たし勢いづくクルンジザ大統領は、政権批判への弾圧を強め、過去に拷問廃止に取り組む人権団体に活動していたジェルマンさんも、逮捕されました。その後、「反逆」と「国家の安全への脅威」、さらに「反乱運動への参加」などの罪に問われ、一審で 32 年もの実刑判決を言い渡されました。

この判決は、控訴審でも支持されましたが、破棄院(最高裁)では破棄され、審理が差し戻されました。その理由は、控訴審で陪審員全員が入れ替わったにもかかわらず、一審の審理内容が引き継がれないまま、被告人に不利な審理が行われた可能性があるというものでした。そして、今年 6 月の控訴審では、「反逆」を除く有罪判決はすべて破棄され、実刑が 1 年に減刑され、すでに 4 年間勾留されていたジェルマンさんは、釈放されました。

昨年のライティングマラソンでも取り上げたジェルマンさんの手紙書きには、世界で 43 万 6000 人もの人たちが参加しました。人権活動をしていただけで根も葉もない罪に問われ、厳刑を科されたことへの怒りが、多数の人たちを動かしたのです。

妻のエメリンさんからアムネスティに感謝のメッセージが届きました。

「夫が帰ってきて、これほど嬉しいことはありません。釈放のために活動してくださった皆さんに、心から感謝します」と。

チリ：グスタボさんの支援署名が 20 万超



©Amnesty International

昨年のライティングマラソンで取り上げたグスタボさんの支援で集まった 20 万 6,000 筆を超える署名が 7 月 27 日、アムネスティ・チリ支部により検察局に提出されました。

公共料金の値上げや不平等をめぐる抗議が、チリ全土に広がる中、デモに参加していたグスタボさんは、治安部隊のゴム弾を顔に受けて失明する悲劇にみまわれました。

アムネスティ・チリ支部は、新型コロナウイルス感染のパンデミックが始まって以来初となる対面のイベントで、グスタボさんを支援。イベントに駆けつけたご本人が、こう訴えました。

「皆さんの署名は、今、この国で何が起きているのか、世界が注目していることを忘れるな、というチリ当局への訴えです。デモを暴力で鎮圧した治安部隊の責任を求める私たち被害者たちの思いでもあります。アムネスティと連帯する私たちも今、当局の暴力行為を調べる活動をしています。ゴム弾の引き金を引いた隊員だけでなく、その使用を指示した上官の責任も問われなければなりません。私たちのために正義を求める活動に参加してくれた皆さんに感謝します。1 日も早く、治安部隊の隊員らが処罰されることを願っています」

検察官は今回、グスタボさんが置かれている状況に理解を示し、ゴム弾の使用を認めた上官らも捜査すると明言しました。これは、アムネスティの要請に沿った対応であり、今後の捜査の進展に期待できそうです。何らかの進展があれば、その情報を皆さんと共有したいと思います。

ホンジュラス：ベルタさん殺害の首謀者に有罪



ホンジュラスの環境活動家ベルタ・カセレスさんの殺害を教唆した容疑に問われていた電力会社の CEO ダビッド・カスティージョ被告人の裁判で 7 月 5 日、裁判所は、有罪を言い渡しました。

2016 年 3 月、先住民族の環境保全に取り組んでいたベルタさんは、自宅で何者かの銃弾に倒れました。その後、殺害を指示したとして水力発電プロジェクトの責任者でもあったカスティージョ幹部の名前が浮上し、同氏は逮捕されました。裁判は 4 月に始まり、6 月末に最終審理があり、今回の有罪判決となりました。刑期は、8 月に言い渡される予定です。

アムネスティは、この有罪判決は、ベルタさんの正義への一歩だというメッセージを SNS で送りました。ベルタさん殺害の真相究明と加害者の処罰、同様の犯罪の防止などのために、先住民族の支援団体や弁護士、そして世界中の人たちが、事件の解明と殺害に関わった関係者と実行犯の処罰などを求める活動に参加しました。

ベルタさんへの正義を求めるアムネスティの活動には 2741 人が参加し、捜査関係者らに 9,396 通の手紙とメールが送られました。活動に参加した皆さんに心から感謝します。

ベルタさんのケースは、これでひとまず終わります。再びアクションを起こす必要があれば、あらためてお知らせします。

ベネズエラ：強かん被害少女支援教員に無罪

強かんて妊娠した少女の中絶を手助けして罪に問われていた教師で、性と生殖の権利を擁護する活動家でもあるパネッサ・ロザレスさんが、釈放されました。パネッサさんは、強かんされて妊娠した教え子の少女（13 歳）が中絶手術を受けられるようにして罪に問われ、昨年 10 月から勾留や自宅軟禁を受けていました。7 月 21 日、裁判所は予備審理で検察側の公訴を棄却したため、パネッサさんは、ようやく自由の身になることができました。

昨年 10 月、強かんされ妊娠した少女の母親が、医師から命に関わるおそれがあると告げられました。母親から相談を受けたパネッサさんは、少女が妊娠中絶を受けられるよう手助けしました。この行為が、第三者への妊娠中絶の誘導、犯罪謀議、妊娠中絶情報の提供にあたるとして、パネッサさんは罪に問われたのです。

警察と検察の対応は、当初から不適切でした。当局は、少女から中絶後の検査を受けている病院から少女が強かんの被害者であることを知らされながら、捜査に入らず、7 月時点でまだ加害者を拘束していません。また、警察は、弁護人や家族の立ち会いなしに少女を事情聴取し、中絶を手助けしたパネッサさんを割り出し、逮捕したのです。

中南米の中でも特にベネズエラは、性と生殖に関する権利の制限には厳しく、妊婦の生命に危険がある場合を除き、妊娠中絶を犯罪としています。

パネッサさんの逮捕以来、国内外の NGO は、不当な容疑で罪に問われているパネッサさんの無罪釈放を求めてきました。アムネスティが、パネッサさんの UA（緊急行動）を開始してから 1 週間後の予備審理で、パネッサさんは無罪を言い渡され、自由を勝ち取ることができたのです。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F

TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778

E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費:1500 円

郵便振替:00120-9-133251

加入者名:公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本

UA ニュース

www.amnesty.or.jp

アムネスティ・インターナショナル日本 UA センター



発行 2021 年 9 月 27 日
